

アンソニ グリ ン 英国出身の元キリスト教徒

:

明:

アンソニ (ムスリム名アブドッラヒ ム) は、英国社会において何を 出したか、そして何が彼にイスラ ムを受け入れさせたのかについて ります。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: Islamic Voiceによるインタビュー

日 1 Apr 2013

集日 25 Aug 2013

身、金 、碧眼、そして壮年のアブドッラヒ ム グリ ンは、ハリウッド映画からそのまま出てきたかのような 貌の持ち主です。このタンザニア生まれの英国人は1988年にイスラ ムを受け入れ、それ以来は英国におけるダアワ (宣教) の 践者として知られてきました。彼の身なりは、キリスト教ヨ ロッパにおけるイエス キリスト像がただちに をよぎります。グリ ンのイスラ ム改宗は、エジプト滞在がきっかけでした。彼は先の10月、バンガロ ルで「神の最 示」について しています。その滞在中、彼はIslamic Voiceのインタビュー を 可してくれました。

生い立ち

私は英国人の のもと、タンザニアのダルエスサラ ムで1964年に生まれました。父ゲイヴィン グリ ンはいまだ存 する大英帝国の植民地行政官でした。彼は1976年にバ クレイズ 行に就 し、その エジプトのバ クレイズ 行を立ち上げるため、 地に派遣されました。私はアンプルフォ ス カレッジと呼ばれる、有名なロ マカトリックの修道院で教育を受け、ロンドン大学で 史を学びました。しかし、大学は中退しました。

在、私は英国に 点を置くイスラミック メディアの会社で き、ダアワ活 に携わっています。ロンドンで有名なハイド パ クでのイスラ ム などを行っています。

学位の取得が妨げられた理由は？

私は英国の教育制度に幻 しつつ育ちました。それは完全にヨ ロッパ中心主 で、文明がヨ ロッパにおいて 花し、 に したかのような世界史を投影させています。私はエジプトに住み、考古学者しか行けないような雄大な などを に てきたことから、欧米の 史解 は完全に ったものであることに 付いたのです。私は独学で世界の他地域の 々な 典や哲学を研究しました。そして3年近くに渡り 教を 践してはいましたが、正式な改宗には至りませんでした。

クルア ンについて勉 した私は、直ちにそれに惹かれました。その教えは魅力的で、私はそれが神による 示であると 信しました。私は他の でもない、アッラ のみが私を いたことを信じています。なぜ私のような者がイスラ ムに するのは、未だ分かりませんが。

なにか特定の魅力的なものがあったのですか？

私は8 の から、キリスト教に する不 を抱いていました。私たちはアベマリアなどの歌によってキリスト教の概念を っていました、それは私にとって、容 できるものではありませんでした。キリスト教は、一方では神を永 の存在であるとしておきながら、マリアの子 に神を宿すという概念に良心の呵 を感じません。私は、マリアが神よりも 大なのではないかと思ったこともあります。

次に、キリスト教の三位一体概念にも困惑させられました。「カナダのメ プルリ フは三つの部分に分かれているが、一つのものである」といった例えは、まったく不 当であると思えました。

は、エジプト人が私を 攻めにしたことからやって来ました。私自身、キリスト教の信条には混乱していましたが、そのときはほとんどの白人中 の英国人キリスト教徒がそ

うであるように、教条的であることに努めました。しかし彼は、神が十字架で死んだ
ということ私に 知らせ、キリスト教における神の永 性の空虚さを露呈させたのです。
。そのとき私は、自分がそれまでの人生を通して信じていたことは、 $2+2=5$ のような不
合理的なものだったことを 知ったのです。

欧米式の巧妙に 見 込まれた人生に、私は 強く拒否反 を示しました。私は、人が生きるのは
ただ 密なスケジュールに束 されるためだけなのかと疑 を抱き始めました。私はヨ ロッパ
人が、人生を しめていないことに 付いていました。彼らには、人生における高尚な目
的が ないのです。

エジプト人 パレスチナ人とパレスチナ について していると、欧米による人々への洗 画
が明らかになりました。虚 の 史、政治、 がシオニストによって捏造され、欧米メディ
アによってそのまま垂れ流されているのです。ユダヤ人によって2000年以上も前に退
去された土地が、なぜ彼らの祖国となり得るのでしょうか？

また、 在のユダヤ人たちは、 にはセム族ではなく、スラヴ民族であり、パレスチナの
土地は常に果 の茂った 地だったのです。イスラエルによる「砂漠のたちまちの 化」は
捏造されたつくり なのです。

ソ を制裁する一方、中南米における独裁政 の 生を助け、支援した米国の役割を べると
、米国人の二枚舌と 善が明らかになりました。

エジプトと英国の人々の生活には、どのような 比がありましたか？

エジプト人は しく困 していましたが、幸福でした。彼らはすべての 事をアツラ に委ね
、家に ると惨めさを忘れたのです。祈りによって み事は神へと されたのです。また、
礼 における羞 心や 密さも て取れました。

しかし英国では、人々は浅薄で物 主 でした。彼らは幸福であるかのように振舞ってい
ますが、それは表面的なものです。彼らの礼 は、歌や踊り、手拍子などによって 成さ
れますが、そこには 虚さや神との 密さは存在しません。

私は、欧米における一般大衆の世間は、シオニストのメディアによって管制されているという事に付きました。パレスチナはそのうちの一つです。パレスチナ人たちとの会によって、欧米がイスラエルにして信じてきた虚構が明らかにされたのです。その第一は、ユダヤ人たちは本来の祖国であるイスラエルに利益があるというものです。第二は、彼ら世界中のユダヤ人たちの大半は、中世にユダヤ教に改宗したスラヴ人であるにもかかわらず、自分たちを都合よくセム族であると自称していることです。そして第三は、イスラエルの「奇蹟」は、宗教的科学的神を作り上げるために理付けられたものであるということです。

私はそれまで、この世におけるパレスチナの言い分を知りませんでした。私は欧米の人々がメディアの洗脳を受けていることを信じました。米国は途上国が少しでも人権を侵害すれば、彼らを制裁しようとするあらゆる手口を使いますが、米国自身も中南米諸国にし、米国の政策に合わない指導者たちへ暗部を送り込んでいたのです。そうした善は、米国のメディアでは決して批判されませんでした。

英国での生活はムスリムとしてどのようなものですか？

欧米の精神は、人の性を弱めます。これはイスラームとは相背します。真なるムスリムはもがかく乱されています。彼らは性的感情を扇動するものに倒されています。女性の大半は13にもなると女を失い、3-4人の恋人を持つことが一般的なのです。

欧米のムスリムにとってのジレンマとは、性、麻、酒、そして性的放逸にまみれた社会にどうやって溶け込むかということなのです。もし溶けこまないというのであれば、彼らの孤立をいかに防ぐかということなのです。

1997年 130番 11月11日号のIslamic Voiceによるインタビュー。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/707>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。